

2008年度(平成21年3月期) 決算説明会

大日本住友製薬株式会社
代表取締役社長 多田 正世

2009年5月12日

2008年度決算の概要



2008年度経営成績の総括

1. 損益は計画を達成
2. 薬価改定の影響やアムロジンの減収はあったが、新製品の発売などで売上高は横ばい
3. ルラシドンの開発は順調に進捗
4. 原価率の上昇、研究開発費の増加により、営業減益

経営成績

金額単位：億円

	07年度	08年度	前期比		業績予想	差額
			増減額	増減率		
売上高	2,640	2,640	0	0.0%	2,660	△ 20
営業利益	398	312	△ 86	△ 21.7%	305	7
経常利益	377	314	△ 63	△ 16.6%	305	9
当期純利益	256	200	△ 56	△ 21.9%	185	15

(注) 記載金額は億円未満を四捨五入しております。

売上高の増減要因

金額単位：億円

	07年度	08年度	前期比	
			増減額	増減率
売上高	2,640	2,640	0	0.0%

(増収要因)

- ・新製品(ロナセン・アバプロ)の寄与
- ・新規生産受託の開始

(減収要因)

- ・薬価改定の影響
- ・アムロジンの減収

医薬品事業の売上高

金額単位：億円

	07年度	08年度	前期比増減額	前期比増減率
アムロジン	636	579	△ 57	△ 9.0 %
ガスモチン	195	202	7	3.4 %
プロレナール	145	148	3	2.1 %
メロペン	148	148	0	0.1 %
戦略4製品 計	1,124	1,077	△ 48	△ 4.2 %
ロナセン	—	34	34	—
アバプロ	—	15	15	—
トレリーフ	—	1	1	—
新製品 計	—	50	50	—
エバステル	111	106	△ 5	△ 4.1 %
スミフェロン	60	60	△ 0	△ 0.7 %
アムビゾーム	25	31	5	20.0 %
その他医薬品	524	527	3	0.5 %
国内医薬品事業 計	1,845	1,850	5	0.3 %
海外売上高 計	241	218	△ 23	△ 9.6 %
医薬品事業 計	2,087	2,068	△ 18	△ 0.9 %

売上原価・販売費及び一般管理費

金額単位：億円

	07年度		08年度		前期比	
		対売上高 比率		対売上高 比率	増減額	増減率
売上高	2,640	—	2,640	—	0	0.0%
売上原価	994	37.6%	1,037	39.3%	44	4.4%
売上総利益	1,646	62.4%	1,603	60.7%	△ 43	△ 2.6%
販売費及び一般管理費	1,248	47.3%	1,291	48.9%	43	3.5%
販売費・一般管理費	775	29.4%	763	28.9%	△ 12	△ 1.6%
研究開発費	473	17.9%	528	20.0%	56	11.7%
営業利益	398	15.1%	312	11.8%	△ 86	△ 21.7%

(注) 売上原価には返品調整引当金繰入(戻入)額を含めて記載しております。

(売上原価)

- ・薬価改定に伴う販売価格低下により、売上原価率が上昇
- ・棚卸資産の評価に関する会計基準の適用に伴う増加

(販売費及び一般管理費)

- ・ルラシドンの海外臨床開発の進展に伴う研究開発費の増加

営業外損益および特別損益

金額単位：億円

	07年度	08年度	前期比	
			増減額	増減率
営業利益	398	312	△ 86	△ 21.7%
営業外損益	△ 22	2	24	
金融収支(受取配当金を含む)	14	16	2	
寄付金	△ 18	△ 18	△ 1	
その他	△ 18	4	22	
経常利益	377	314	△ 63	△ 16.6%
特別損益	38	8	△ 30	
訴訟損失引当金戻入額	—	11	11	
投資有価証券売却益	38	—	△ 38	
投資有価証券評価損	—	△ 3	△ 3	
法人税等・少数株主利益	△ 159	△ 122	37	
当期純利益	256	200	△ 56	△ 21.9%

財政状態

金額単位：億円

	前期末 (2008年3月31日)	当期末 (2009年3月31日)	増減額
資産の部	3,998	3,913	△ 85
流動資産	2,511	2,635	125
固定資産	1,487	1,278	△ 210
負債の部	815	668	△ 147
流動負債	679	533	△ 146
固定負債	136	134	△ 1
純資産の部	3,183	3,245	62
(自己資本比率)	79.6%	82.9%	

(資産の部)

- ・短期貸付金の増加・・・・・・・・・・・・・・・・・・100億円
- ・投資有価証券(主に評価差額)の減少・・・・・・・・△104億円

(負債の部)

- ・1年内返済予定の長期借入金の返済・・・・・・・・△46億円
- ・未払金の減少・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・△59億円

キャッシュ・フロー

金額単位：億円

I 営業活動によるキャッシュ・フロー	+ 263
・税金等調整前当期純利益	+ 322
・減価償却費	+ 115
・売上債権の減少額	+ 66
・たな卸資産の増加額	△ 60
・法人税等の支払額	△ 186
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 213
・有形固定資産の取得による支出	△ 136
・短期貸付金の純増額	△ 100
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 118
・長期借入金の返済による支出	△ 46
・配当金の支払	△ 72

当期末現金及び現金同等物残高 495億円(前期末比△68億円)

2009年度業績予想の概要

2009年度業績予想のポイント

1. アムロジン、メロペンが後発品の影響をさらに受け、医薬品事業は微減収
2. 品目構成・事業構成変化による原価率の上昇
3. ルラシドン開発費がピークを迎える
4. 営業利益は大幅な減益

2009年度業績予想

金額単位：億円

	08年度 実績	09年度 業績予想	前期比	
			増減額	増減率
売上高	2,640	2,640	—	—
営業利益	312	250	△ 62	△ 19.8%
経常利益	314	240	△ 74	△ 23.6%
当期純利益	200	150	△ 50	△ 25.0%

* 09年度より住友製薬(蘇州)有限公司を新規に連結する予定です。

研究開発費	528	545	17	3.2%
-------	-----	-----	----	------

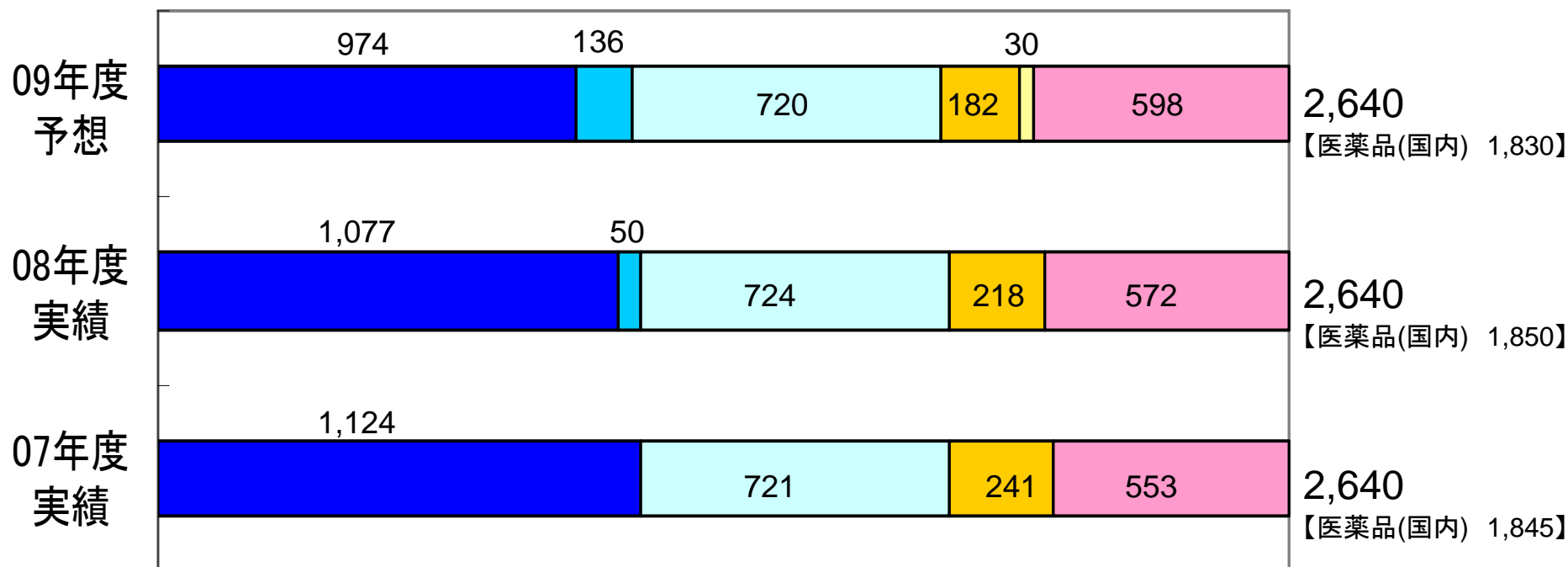
売上高予想(1)

金額単位：億円

	08年度実績	09年度予想	増減額
アムロジン	579	480	△ 99
ガスモチン	202	210	8
プロレナール	148	155	7
メロペン	148	129	△ 19
戦略4製品 計	1,077	974	△ 103
ロナセン	34	65	31
アバプロ	15	60	45
トレリーフ	1	11	10
新製品 計	50	136	86
エバステル	106	86	△ 20
スミフェロン	60	60	0
アムビゾーム	31	43	12
その他医薬品	527	531	4
国内医薬品事業 計	1,850	1,830	△ 20
海外売上高 計	218	212	△ 6
医薬品事業 計	2,068	2,042	△ 26

売上高予想(2)

金額単位: 億円

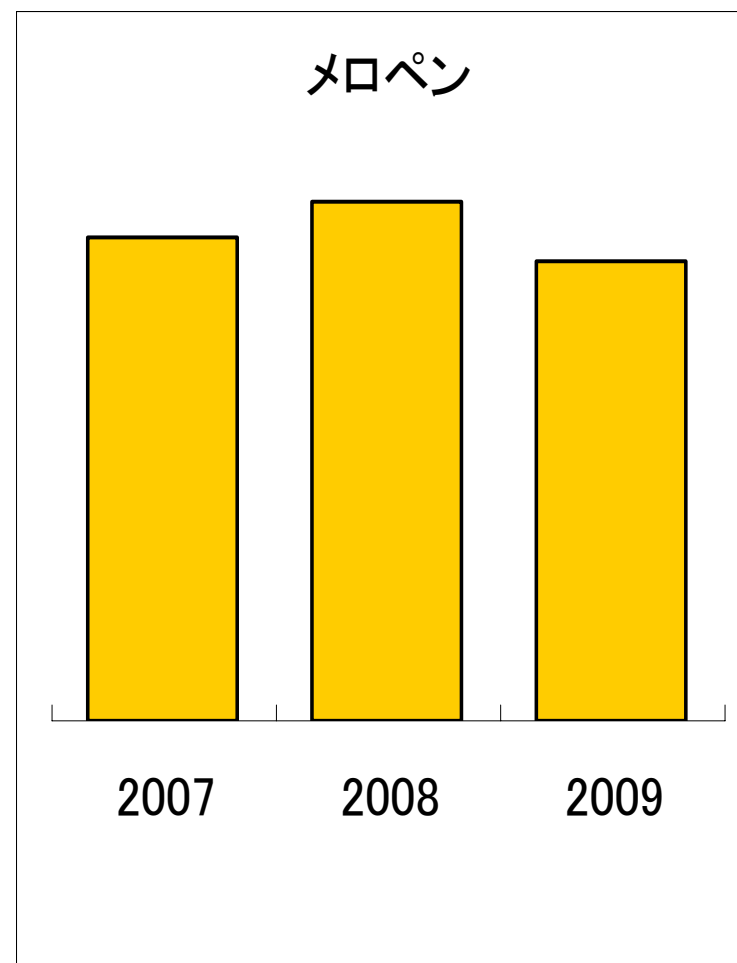
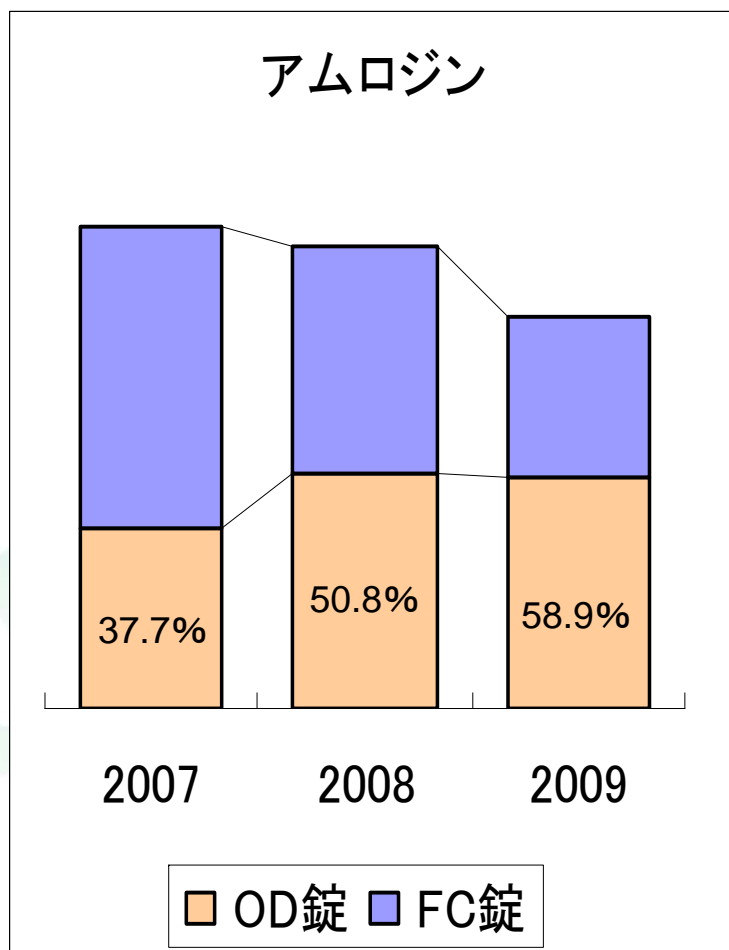


- 戦略製品
- 新製品
- 医薬品(その他)
- 医薬品(海外)
- 住友制薬(蘇州)
- その他事業

(医薬品)
後発品発売による影響を新製品などの売上拡大でカバーする

売上高予想(3)

アムロジン、メロペンの数量推移



売上原価・販売費及び一般管理費の内訳

金額単位：億円

	08年度 実績		09年度 業績予想		前期比	
					増減額	増減率
売上高	2,640	—	2,640	—	—	—
売上原価	1,037	39.3%	1,065	40.3%	28	2.7%
売上総利益	1,603	60.7%	1,575	59.7%	△ 28	△ 1.7%
販売費及び一般管理費	1,291	48.9%	1,325	50.2%	34	2.6%
販売費・一般管理費	763	28.9%	780	29.5%	17	2.2%
研究開発費	528	20.0%	545	20.6%	17	3.2%
営業利益	312	11.8%	250	9.5%	△ 62	△ 19.8%

(注) 売上原価には返品調整引当金繰入(戻入)額を含めて記載しております。

(売上原価)

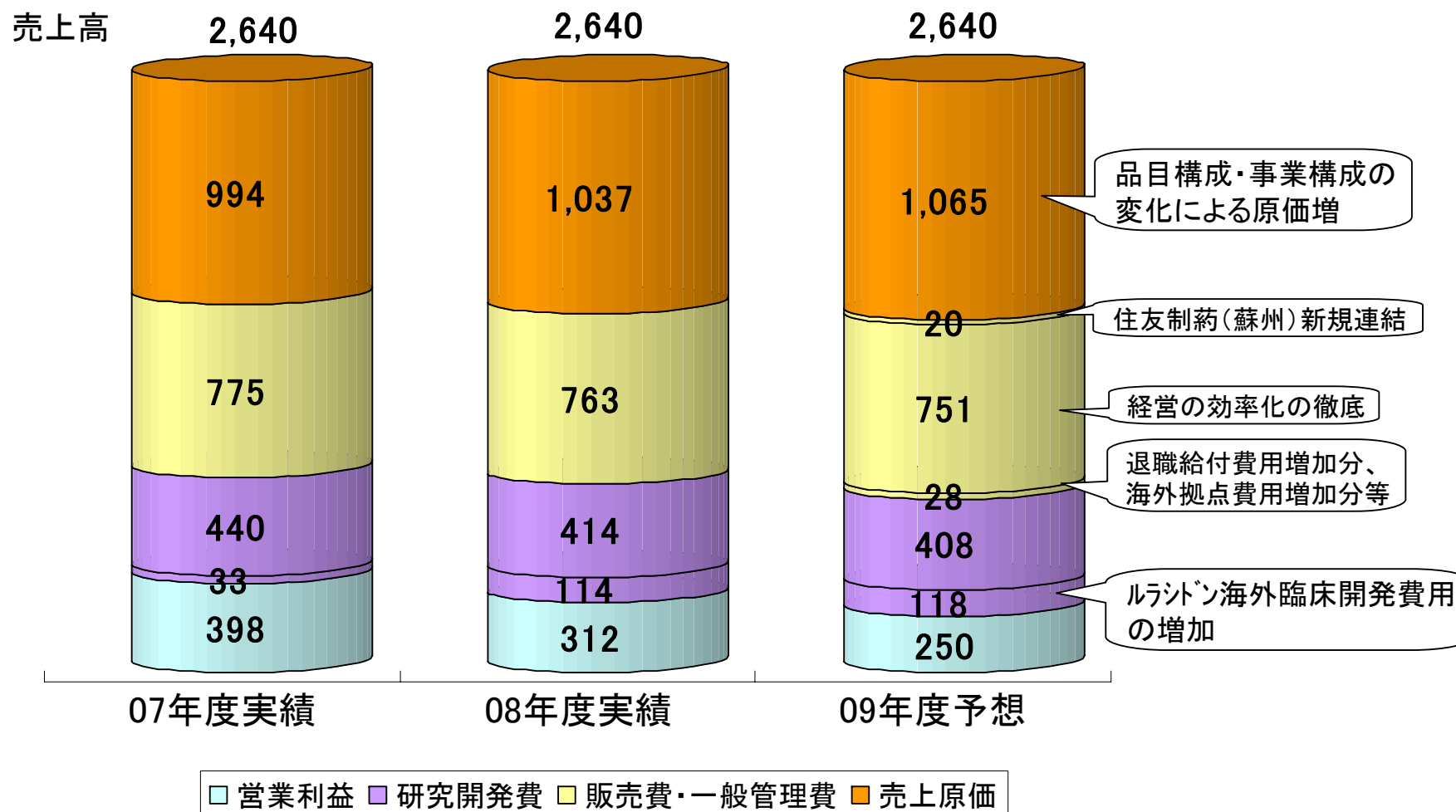
- ・品目構成の変化による原価率上昇

(販売費及び一般管理費)

- ・ルラシドンの海外自社開発への積極的な投資による研究開発費の増加
- ・経営の効率化の徹底による他の費目の節減
- ・住友製薬(蘇州)新規連結による販売費・一般管理費の増加

損益構造推移

金額単位：億円



住友制薬(蘇州)有限公司新規連結の影響

金額単位: 億円

	住友制薬 (蘇州)	内部取引 等消去	連結へ の影響
売上高	50	△ 20	30
売上原価	15	△ 10	5
売上総利益	35	△ 10	25
販売費及び一般管理費	25	△ 5	20
営業利益	10	△ 5	5

株主還元について

1. 基本方針

- ・株主のみなさまへ常に適切な利益還元を行うことが最も重要な経営方針の一つ
- ・配当につきましては、業績に裏付けられた成果を適切に配分することを重視するとともに、企業価値のさらなる向上に向け、将来の成長のための積極的な投資を行いつつ、強固な経営基盤の確保と財務内容の充実を図ることなどを総合的に見極め、決定

2. 配当推移

	07年度	08年度(予定)	09年度(予定)
1株当たり配当金(円)	18.00	18.00	18.00
連結配当性向(%)	28.0	35.8	47.7


〈参考〉

純資産配当率(%)	2.3	2.2	2.2
-----------	-----	-----	-----


臨床開発の現況

臨床開発の現況

申請中	第III相試験	第II相試験	第I相試験
肝細胞癌治療剤 SM-11355 (ミラプラチン)	糖尿病治療剤 SMP-508 (レパグリニド)	糖尿病合併症治療剤 AS-3201 (ラニレストット)	過活動膀胱治療剤 SMP-986
糖尿病治療剤 SMP-862 (トホルミン)	統合失調症治療剤 SM-13496 (ルラシトン)	高血圧症治療剤 (配合剤) DSP-8153	糖尿病治療剤 DSP-3235
適応菌種追加 アムビゾーム	統合失調症治療剤 双極性障害治療剤 (米国・欧州等) SM-13496 (ルラシトン)	過活動膀胱治療剤 (米国・欧州) SMP-986	アレルギー性疾患治療剤 DSP-3025
発熱性好中球減少症 メロペン	小細胞肺癌治療剤 (中国) アムルビシン		気管支喘息治療剤 (米国) SMP-028
			糖尿病治療剤 (欧州) DSP-7238
			糖尿病治療剤 (米国) DSP-8658

 国内開発(新有効成分)

 国内開発(適応症追加等)

 海外自社開発

本年2月からの変更を白抜き文字で表示

臨床開発 進捗状況(09年2月からの変更)

■ ガスモチン(モサプリド): 表より削除

- 2009年4月に製造販売承認を取得したため
- 適応症: 経口腸管洗浄剤によるバリウム注腸X線造影検査前処置の補助

■ DSP-8153: 国内での開発を新規掲載

- イルベサルタンとアムロジピンとの配合剤
- 適応症: 高血圧症

■ DSP-3025: 表中開発ステージの変更

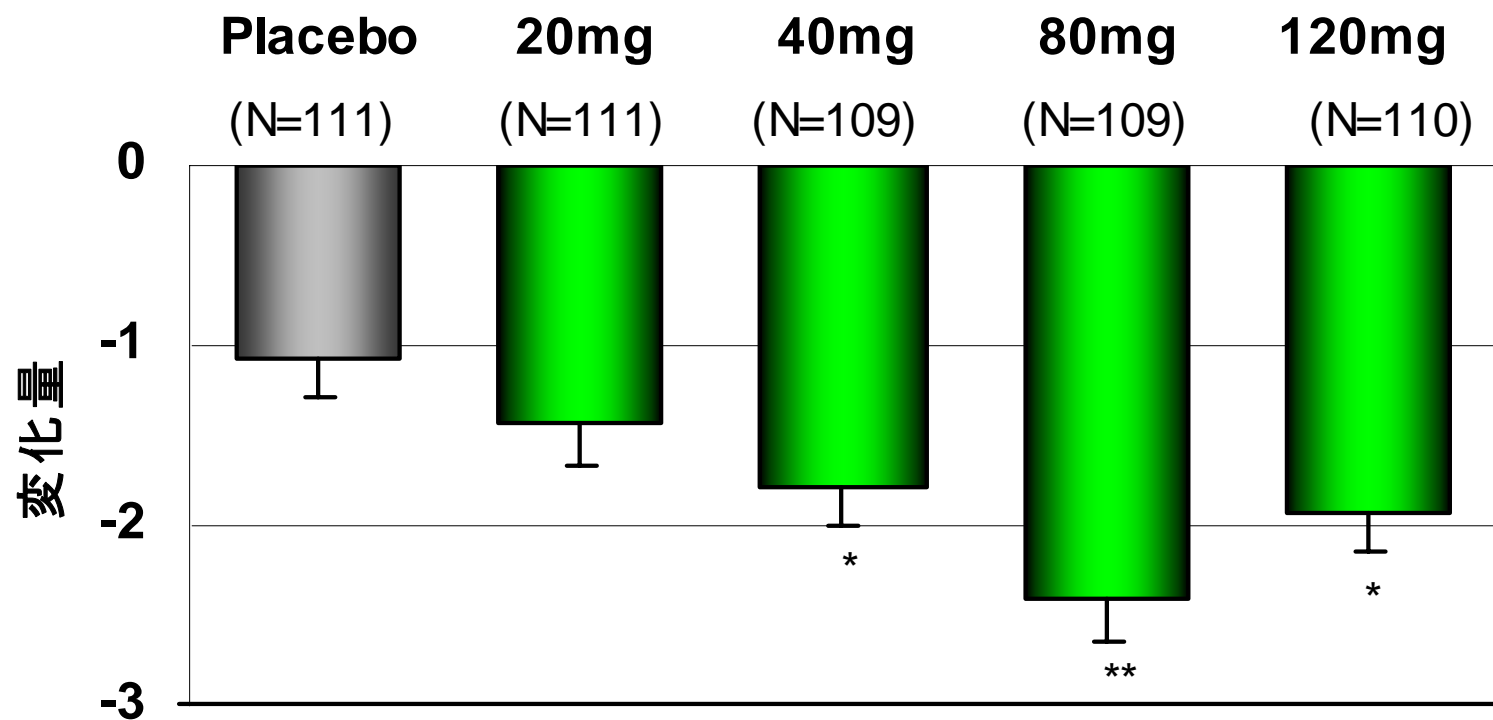
- 第 I 相試験準備中を第 I 相実施中に変更

■ AC-3933: 表より削除

- 開発中止のため

SMP-986 海外P2試験成績

24時間あたりの排尿回数の変化量



Mean change from baseline at 8 week (LOCF analysis)

*: $p < 0.05$, **: $p < 0.01$ vs placebo

SMP-986 海外P2試験成績

■ 有効性

主要評価項目である 24時間あたりの排尿回数の変化量において、SMP-986 40mg/日投与群以上で、プラセボ群に比べて有意な改善効果を示した。

■ 安全性(忍容性)

用量依存的に抗ムスカリン作用に由来する副作用の発現が認められたものの、それ以外に特に問題となる有害事象は認められなかった。

2009年度以降についての 基本的な考え方

中期経営計画の経営目標の進捗状況

金額単位：億円

	2009年度		差額
	経営目標 (中計)	業績予想 2009.5.11	
売上高	2,950	2,640	△310
内医薬品事業	2,330	2,042	△288
営業利益	500	250	△250
当期純利益	300	150	△150

研究開発費	550	545	△5
-------	-----	-----	----

売上高の差異について

■ 戦略4製品の目標との乖離大

アムロジン	目標580億円	予想480億円
ガスモチン	280億円	210億円
プロレナール	180億円	155億円
メロペン	160億円	129億円
戦略4製品 合計	1,200億円	974億円



(△226億円)

■ 売上高乖離の原因

- 各品目の市場や市場変化に関する認識
- 営業力の評価

中期経営計画の基本方針

グローバル化に向けた事業基盤の整備・強化

1. 国内収益基盤の強化
2. 新薬継続創出に向けた体制の強化
3. 海外事業展開に向けた体制の整備
4. 戦略的提携の強化
5. 継続的な経営効率の追求
6. DSPマネジメントの確立

2009年度の最重点取り組み

2010年度以降も見据えた対応

- 国内収益基盤の強化
- 経営効率の追求
- 海外事業展開に向けた体制の整備

2009年度の最重点取り組み(国内収益基盤)

■ 国内収益基盤の強化

<営業力強化>

- 営業本部組織体制の刷新
- 地域別損益管理システムの導入
- デイテール(質と量)の更なる向上

<製品力強化>

- 戦略4製品の価値最大化
- 新製品への営業注力・開発品の早期上市
- 開発後期化合物の導入促進

2009年度の最重点取り組み(経営効率)

■ 経営効率の追求

- 優先順位付けに基づいた研究開発費の効果的使用の徹底
- 間接部門を中心とした業務革新プロジェクトの推進
- トータルコストの圧縮

2009年度の最重点取り組み(海外事業展開)

■ 海外事業展開に向けた体制の整備

- ルラシドンの米国自販体制の構築、提携の検討など
- ルラシドンに続く、更なる米国事業展開の検討
- 中国事業の強化
- その他

ルラシドン 進捗状況

グローバル試験(実施中)

■ 統合失調症

- プラセボ対照第Ⅲ相試験(PEARL 1)
 - 2007年10月25日、スクリーニング開始
 - 患者のリクルート予定通り完了
- プラセボ及び実薬対照第Ⅲ相試験(PEARL 2)
 - 2008年1月31日、スクリーニング開始、投与中
- 長期安全性投与試験(PEARL Safety)
 - 2008年3月17日、スクリーニング開始、投与中
- プラセボ及び実薬対照第Ⅲ相試験(PEARL 3)
 - 2008年10月15日、FDAへIND Amendment提出
 - 2008年10月27日、スクリーニング開始、投与中

**Program to
Evaluate the
Antipsychotic
Response to
Lurasidone**

ルラシドン 進捗状況

グローバル試験(実施中)

■ 双極性障害 (うつ)

- 2008年12月17日、INDをFDAに提出
- 第Ⅲ相試験(PREVAIL試験)スクリーニングを2009年4月に開始

PRogram to
EValuate the
ANtidepressant
IMpact of
Lurasidone

国内(Pan-Asia)開発

- 日本、台湾、韓国で統合失調症患者に対する第Ⅲ相試験を実施中
- 試験計画概要
 - 対照薬: プラセボ(参照薬: リスペリドン)
 - 目標症例数: 440例
 - 主要評価項目: PANSS

ルラシドン 今後の予定(2009年)

■ PEARL 1試験 解析結果

APA発表・・・5/20

アナリスト説明会(東京)・・・6月中旬

■ PEARL 2試験結果・・・2009年秋に入手予定

■ PREVAIL試験・・・2009年度1Qより投与開始予定

将来予測に関する注意事項

この資料に含まれる将来の予測に関する事項は、発表日現在において入手可能な情報による当社の仮定および判断に基づくものであり、既知または未知のリスクおよび不確実性が内在しております。したがって、実際の業績、開発見通し等は今後さまざまな要因によって大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき願います。

医薬品(開発中のものを含む)に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。